

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04770

研究課題名(和文)20世紀における芸術文化の国際的展開

研究課題名(英文)International Expansion of Art and Culture in the Twentieth Century

研究代表者

柳下 恵美(Yagishita, Emi)

早稲田大学・文学学院・招聘研究員

研究者番号：10757256

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文):20世紀初頭から半ばにかけて、世界的に活躍した芸術家たちの国際的活動や相互影響、教育活動の考察が主目的の本研究は、当初、欧米圏で一次史料収集やインタビュー等順調に遂行できたが、コロナ禍により海外調査ができず、計画を大幅に変更した。研究の集大成として、コロナ禍中はオンラインによる国際シンポジウムを、コロナ禍が落ち着いた頃に対面による講演会を開催した。広範囲の文化圏を扱った世界のトップレベルの研究者たちの発表や意見交換は、20世紀における舞踊の特徴と特異性、今後の舞踊の動向について多くの知見が得られ、参加者を交えた議論は大変有意義であった。対面による一流研究者の講演会でも、最先端の知見を得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで詳細に研究されなかった芸術家たちの国境を越えた国際的芸術・教育活動の考察結果を国際学会で発表し、論文に著したことは学術的意義があると考えられる。またトップレベル研究者を集めた国際シンポジウムのオンライン共催と対面による講演会は、有意義なディスカッションも含め、国内と海外からの多くの参加者に最先端の知見を与えた。このことによる学術的意義は大きく、文化交流の中心にあるMFJとの共催は社会的意義がある。

研究成果の概要(英文):This research focused on artists who were active worldwide from the beginning to the middle of the twentieth century and analyzed their international activities, interactions, and educational activities. Initially, I could execute research, including reviewing primary sources and conducting interviews. Due to COVID-19, I had to change my initial research plan drastically. As a culmination of this research, during COVID-19, I organized an online international symposium; after COVID-19 settled down, I scheduled an in-person lecture. This symposium featured a wide range of cultures, and presentations and discussions by top-level researchers covered the characteristics of dance and specificity in the twentieth century; it also created many new findings about future trends in dance, and the interactions with participants were meaningful. The in-person lecture by a leading researcher also brought cutting-edge knowledge and ideas.

研究分野：史学、文化史、国際文化、美学・芸術文化

キーワード：国際文化 日本 アメリカ ヨーロッパ 東西交流 芸術 教育 舞踊

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、特別研究員奨励費と研究活動スタート支援費を受け研究遂行した「イザドラ・ダンカンと彼女の舞踊が芸術・文化・社会に与えた影響」と「20世紀前半における日本人舞踊家の国際的公演活動と欧米諸国での受容」の研究成果を踏まえ、さらに関連人物を広げて、調査研究し発展させたものである。本研究以前の両研究は、イザドラ・ダンカンと彼女との関わりがあり世界的に活躍した日本人舞踊家の川上貞奴、花子（太田ひさ）、伊藤道郎に焦点をあてた。本研究ではさらに、彼ら以外でイザドラ・ダンカンと関わりがあると推測される世界的に活躍した芸術家を選定し、彼らの国際的活動から舞踊教育、さらに芸術家同志の繋がりから、芸術文化の国際的展開を視野に考察することにした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで研究対象としてきたモダンダンスの創始者イザドラ・ダンカンと直接、間接的に関わりがあり、20世紀初頭から半ば頃世界的に活躍していた舞踊家の舞踊形成過程、舞踊教育、及び国際的公演活動の展開と相互交流について、当時の新聞、公園プログラム、映像資料、雑誌、関係者へのインタビューを基に詳細に調査・研究し、学術的観点からの解明を試みることである。

### 3. 研究の方法

20世紀における芸術文化の国際的展開について研究遂行するためには、対象人物として、世界的に活躍した芸術家を選定する必要がある。そこで、対象とする芸術家の基準として、自国のみならず他国でも活躍した人物であり、また次世代への教育にも力を入れて学校を設立していること、さらに各芸術家間の比較ができるように、本研究の出発点であったイザドラ・ダンカンとの繋がりがある、あるいは選定した他の芸術家と同時代に交流があった芸術家を選択した。

その上で、各芸術家の国際的活動や、相互影響の関係、教育活動について分析し、選定した各芸術家たちを歴史的、文化的、教育的観点から検証することにより、20世紀における芸術文化の国際的展開と教育活動の全容を体系的にとらえることができると考えた。

研究の最終年には、世界各地で発祥した舞踊・舞踊教育がどのような変遷を経て現在に至っているのかについて国際的見地から議論する場として「20世紀における芸術文化の国際的展開」をテーマとする国際シンポジウムを開催し、今後の芸術文化の発展に寄与できるものとした。

具体的には、選定した各舞踊家が舞踊を形成する上で重要となった国、また一次史料が収められている海外のアーカイヴに出向き、現地で入手した一次史料を基に研究を遂行することにした。コロナ禍により、当初予定していたアーカイヴの全てに出向けないという事態が生じたため、研究方法を変更し、これまでに収集していた史料を再調査し研究を遂行することにした。

コロナ禍以前に現地に訪問できたアーカイヴは以下のとおりである。

アメリカ：ニューヨーク公共図書館、ロサンゼルス公共図書館、UCLA 図書館、ジェイコブズ・ピロー、ハーバード大学ホートン図書館

フランス：フランス国立図書館、ロダン美術館、ポンピドゥーセンター、ジャン・コクトー美術館、カリエール美術館、フランス国立科学研究センター（ベルヴェユ）

スイス：アンステイチュ・ジャック・ダルクローズ、ダンスコレクションアーカイヴ

イギリス：ランベール・アーカイヴ、ブリティッシュ・フィルム・アーカイヴ、ヴィクトリア・アルバート・ミュージアムアーカイヴ

ポルトガル：リスボン国立図書館

イタリア：ヴィラ・バルディニ

ドイツ：ベルリン芸術アカデミー・アーカイヴ

#### 4. 研究成果

(1) 2017年度は、当初の計画どおり 20 世紀前半に活躍した日本人舞踊家、伊藤道郎、新村英一の国際的公演活動と舞踊学校および教育に関する国内外の一次史料の閲覧収集に着手し、調査研究・分析を行った。

具体的には、国内で伊藤道郎、新村英一に関する当時の新聞記事、雑誌等の閲覧収集に努め、国外では上記のアメリカ、フランス、スイスのアーカイヴで一次史料の閲覧収集を行った。これら史料の分析から彼らの舞踊形成、教育、相互交流について明らかにすることができた。

この研究成果を踏まえ、7月初旬にギリシアで開催された国際学会において、伊藤道郎と新村英一双方の舞踊形成、国際的公演活動と教育に関する類似点と相違点を“Two Japanese Male Dancers Who Fascinated the West in the Twentieth Century: Michio Ito and Yeichi Nimura”という題目で研究発表した。

10 月は、アメリカで開催された国際学会において、調査研究から明らかとなった伊藤道郎のロサンゼルスでの活動と彼に学んだアメリカ人ダンサーの来日公演と日本での評価、二国間の文化交流と帰国後の日本での活躍の詳細と 1964 年の東京オリンピックの演出構想などを“Michio Ito: A Bridge Between East and West”という題目で研究発表した。

さらに 11 月には、国内で開催された伊藤道郎に関する国際シンポジウムで「伊藤道郎の国際的芸術活動：東西文化の架け橋を目指して」という題目で、伊藤が日米交流のために行った活動と貢献について講演を行った。

(2) 2018 年度は、当初の計画通り 20 世紀前半に活躍したルス・セント・デニス、ロイ・フラー、マリー・ランベールに関する一次史料の収集に努め、調査研究・分析を行った。

具体的には、彼らの史料が保管されているアメリカ、イギリスの上記のアーカイヴで研究対象に関する一次史料の閲覧収集を行い、調査・考察した。このことから、彼らの国際的公演活動、舞踊形成、教育、相互交流について新たな知見を得ることができた。6 月には、前年度から研究に着手していた新村英一のアメリカにおける公演・教育活動に焦点をあてた研究成果をマルタ島（ヴァレッタ）で開催された国際学会において“Yeichi Nimura's Dance Career in Twentieth-Century America”という題目で発表した。

また同月、ギリシア（アテネ）にも出向き、現地で開催された国際学会で、研究対象の 1 人であるアメリカ人舞踊家のルス・セント・デニスとテッド・ショーンと創設したアメリカの学校に焦点をあて、学校がアメリカにおけるモダンダンスの発展においていかに重要な存在であったかについて“Ruth St. Denis and Ted Shawn's Dance Schools”という題目で研究発表を行った。

(3) 2019 年度は、当初の計画通り 20 世紀前半に活躍したエミール・ジャック＝ダルクローズ、マリー・ヴィグマン、ルドルフ・ラバンに焦点をあて調査研究した。

具体的には、国内で一次史料（書籍を含む）を入手する傍ら、アメリカ、ポルトガル（リスボン）、フランス（パリ）、スイス（ジュネーヴ）、イタリア（フィレンツェ）、ドイツ（ベルリン）のアーカイヴ等を訪問し、研究対象に関する一次史料の閲覧収集と調査分析を行うことで、彼らの国際的公演活動、舞踊形成、教育、相互交流について明らかにすることができ新たな知見を得

た。とくにジュネーヴではダルクローズの末裔の協力を得られ、ダルクローズと日本人舞踊家についてのインタビューを行い、パリでは芸術監督・振付家のカロリン・カールソンに面会し、イザドラ・ダンカンをはじめ 20 世紀に活躍した舞踊家・芸術家に関するインタビューを行うことで詳細について知ることができた。さらにアメリカでは、ハーバード大学のホートン図書館で研究対象者の 1 人であるミハイル・フォーキンに関する史料を閲覧した。

これらの研究成果を、ポルトガル（リスボン）で開催された国際学会において“The Extensive Connection between Isadora Duncan and Artists in Other Disciplines”という題目でイザドラ・ダンカンと同時代に活躍した芸術家との発展的な相互関係について、学術的観点から研究発表を行った。

（4）海外での調査研究はコロナ禍により困難を生じた。そのため 2022 年度まで繰越申請したが、コロナ禍がなかなか収まらず、当初の研究計画の全てを果たすことはできなかったことから、大幅に変更せざるを得なかった。したがって、コロナ禍以前に収集した史料の整理と再検討を行うことで、次のように研究を遂行した。

2020 年には、イザドラ・ダンカンとリヒャルト・ヴァーグナーの芸術観に着目し、自伝をはじめ公演資料、新聞記事、雑誌等から調査研究した。その結果、双方とも自然を重要視した芸術観を持っていたこと、ヴァーグナーに対するエッセイを記すほど彼に対し畏敬の念を抱いていたイザドラが、様々な国でヴァーグナーの曲を踊り、それは自身が亡くなる直前まで続いていたことが明らかとなった。この研究成果は口頭発表と書物に著した。

2021 年 1 月には、日仏会館・フランス国立日本研究所主催の国際シンポジウム（オンライン）で研究発表（英語）と登壇者全員によるディスカッション（英語・日本語）を行った。

2022 年 2 月には、本研究課題の集大成として、日仏会館・フランス国立日本研究所の協力を得て、オンラインによる国際シンポジウムを共催した。このシンポジウムの前半部分では、トップレベルの研究者（国外 4 名、国内 1 名）と筆者の 6 名で、20 世紀におけるアメリカ、ヨーロッパ（主にフランス、スペイン）、アジアと広範囲にわたる文化圏の芸術文化に関する研究発表を英語で行った。後半部分では登壇者 6 名による英語での活発なディスカッションから各文化圏の類似点・相違点、20 世紀に起こった二つの大戦が芸術家に及ぼした影響、各芸術家が自国のみならず国境を越えて活躍したこと、ジェンダーの観点について議論を深めることができた。

その後、ニューヨーク公共図書館で展示される Border Crossings に関連した論文の執筆依頼を受け、執筆提出している。8 月になりコロナ禍が落ち着いたため、フランスに出向き、現地のアーカイヴでダンカンと同時代の芸術家たちの史料を閲覧収集して、史料整理を行った。12 月には、2 月にオンラインで実施した国際シンポジウムの登壇者であった卓越教授を日本に招き、日仏会館・フランス国立日本研究所との共催で対面での講演会をフランス語・英語で開催した。一流の研究者による最先端の研究成果の発表後、異分野の専門家との活発な議論を行うことで、広範な知見を得ることができ、大変有意義な会となった。また筆者が研究対象としているイザドラ・ダンカンに関する書籍の刊行も決定している。

コロナ禍により、海外の調査研究が当初の予定通りに遂行できず、当初の研究計画を変更せざるを得なかったが、十分に遂行できなかった部分に関しては、今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 柳下恵美	4. 巻 -
2. 論文標題 悲しみを超越した美 - イサドラ・ダンカンと『母』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イサドラ・ダンカンの子どもたち	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 巻 17
2. 論文標題 Sada Yakko's and Hanako's Performances: Images of Exotic Japan in the West in the Early Twentieth Century	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 World Art Studies 17(2017) East Asian Theatres: Traditions-Inspirations-European/Polish Contexts	6. 最初と最後の頁 265-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 巻 -
2. 論文標題 Yeichi Nimura's Dance Career in Twentieth-Century America	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 DSA Annual Conference Proceedings 2018	6. 最初と最後の頁 220-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳下恵美	4. 巻 1月11日号
2. 論文標題 多才な一人間として:魅力と功績を余すことなく伝える「山本順二著『ロイ・フラー:元祖モダン・ダンサーの波乱の生涯』」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 読書人	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳下 恵美	4. 巻 8
2. 論文標題 フランス(ベルヴェ)におけるイザドラ・ダンカンの「芸術アカデミー」－創設から閉鎖まで－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多元文化	6. 最初と最後の頁 112-131
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 巻 -
2. 論文標題 Isadora Duncan and Japanese Performers: Sada Yacco Kawakami, Hanako and Michio Ito	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 CORD+SDHS 2016 Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 巻 -
2. 論文標題 Michio Ito: A Bridge Between East and West	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 DSA 2017 Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 巻 17
2. 論文標題 Sada Yakko's and Hanako's Performances: Images of Exotic Japan in the West in the Early Twentieth Century	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 EAST ASIAN THEATRES: TRADITIONS - INSPIRATIONS - EUROPEAN / POLISH CONTEXTS, World Art Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 Isadora Duncan and Dancers in the Twentieth Century: Focusing on Two Japanese Male Dancers Who Were Active Overseas
3. 学会等名 Reconsidering the International Expansion of the Arts and Culture in the Twentieth Century: Interculturality in the United States of America, France and Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 West Meets East: Isadora Duncan and the Japanese Dancers
3. 学会等名 ジャポニズムの時代の黄金期における日本の芸能公演と西洋の芸術家たち：ある国際文化交流の実例か？ 貞奴や花子をめぐって（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳下恵美
2. 発表標題 イサドラ・ダンカンとリヒャルト・ヴァーグナー
3. 学会等名 オペラ/音楽劇研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 The Extensive Connections between Isadora Duncan and Artists in Other Disciplines
3. 学会等名 Arts in Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳下 恵美
2. 発表標題 イザドラ・ダンカンとリヒャルト・ヴァーグナー
3. 学会等名 早稲田大学 オペラ/音楽劇研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 Ruth St. Denis and Ted Shawn's Dance Schools
3. 学会等名 51st World Dance Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 Yeichi Nimura's Dance Career in Twentieth-Century America
3. 学会等名 Dance Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 Two Japanese Male Dancers Who Fascinated the West in the Early Twentieth Century: Michio Ito and Yeichi Nimura
3. 学会等名 50th World Congress on Dance Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Emi Yagishita
2. 発表標題 Michio Ito: A Bridge Between East and West
3. 学会等名 Dance Studies Association Inaugural Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳下恵美
2. 発表標題 伊藤道郎の国際的芸術活動：東西文化の架け橋を目指して
3. 学会等名 世界を駆け抜けた舞踊家伊藤道郎 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 柳下恵美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 -
3. 書名 『イザドラ・ダンカン』(刊行確定：2023年度中)	

1. 著者名 Emi Yagishita	4. 発行年 2023年
2. 出版社 New York Public Library of the Performing Arts	5. 総ページ数 -
3. 書名 "Michio Ito and Yeichi Nimura: Two Remarkable Japanese Dancers Who Stunned the World" (分担執筆) Border Crossings: Exlie and American Modern Dance, 1900-1955 (刊行確定：2023年度中)	

1. 著者名 柳下 恵美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 379
3. 書名 「イザドラ・ダンカンとリヒャルト・ヴァーグナー」(分担執筆pp.139-160) 『オペラ/音楽劇研究の現在』	

1. 著者名 Edited by Maurycy Gawarski, Beata Kubiak Ho-Chi, Ewa Rynarzewska	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Tako Publishing House	5. 総ページ数 342
3. 書名 East Asian Theatres:Traditions-Inspirations-European/Polish Contexts (筆者分担執筆箇所:p.265-272)(World Art Studies 17(2017)と同一出版物)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Reconsidering the International Expansion of the Arts and Culture in the Twentieth Century: Interculturality in the United States of America, France and Japan	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 フランスにおけるバレエ、大革命から20世紀まで	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------